

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170201515		
法人名	メディカ・サポート株式会社		
事業所名	グループホームだんらん		
所在地	米子市富士見町2丁目132番地		
自己評価作成日	令和4年2月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/317/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3170201515-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和4年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「喜怒哀楽」の理念の下、入居者様と真摯に向き合い、たずさわりの受け入れる事で、その人らしく暮らせるよう支援しています。重度化、終末期となっても、ご本人とご家族との関係が途切れないよう架け橋となり、「だんらん」で良かった。」と思ってもらえるよう日々、試行錯誤しながらも前向きに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

米子市中心部の商業地域に立地し、開設からまもなく16年目を迎えるグループホームです。「喜怒哀楽」の理念のもと、入居されているみなさんが毎日楽しく過ごせるよう職員は個々に応じた支援をさせていただきます。食事は3食手作りされており、家庭的な雰囲気の中、それぞれの入所者が役割を持ち動いておられます。家族との良好な関係を保つために、家族会もあり、運営推進会議のメンバーにもなっておられ、面会が難しい現在の状況ですが、本人に会えない時でも家族からのお話を伺い、様子を伝えておられます。看取りも行なわれており、終の棲家として本人・家族から信頼して頂き安心して過ごしていただけるよう努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「喜怒哀楽」の理念の基、その人らしく生活できるよう情報共有し実践につなげるよう努めている。	理念に基づき月間目標を作り、毎日唱和され、振り返りも行われています。利用者がその人らしく生活出来るよう実践に繋げておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ではあったが、利用者と一緒に公民館祭へ作品を展示し出かけたり、地域の一斉清掃に参加し交流をした。	コロナ禍の為、直接触れ合っの交流は難しい状況ですが、昨年の地区公民館の公民館祭には例年同様利用者と共に作品展示を行い、出掛けられました。また、市内一斉清掃に参加し交流されました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談は随時受け付けている。新しく地域貢献活動に参加する事となり、PRも含め地域の方々に発信していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度、運営推進会議を開催し、現状報告、事故防止策等、サービス向上に活かせるよう情報交換を行っている。	2ヶ月に1回運営推進会議は開催されています。コロナ禍で警報発令中は書面での実施となっています。リアル会議に於いてはご意見等頂き、職員間で話し合いサービス向上につなげておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域推進会議を利用し実情を踏まえ情報交換を行ったり、積極的に連絡し情報収集するよう取り組んでいる。	運営推進会議に米子市職員や地域包括職員にも参加頂き、情報交換や助言を頂いております。日頃より疑問な点は米子市長寿社会課に連絡し確認しておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回「身体拘束委員会」を開催し全職員周知徹底を図っている。また施設内外の研修、勉強会に参加し身体拘束「0ゼロ」の思いでケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠をせず対応している。	3ヶ月に1回身体拘束委員会が開催され、職員に身体拘束をしないケアについて周知が図られています。施設内外の研修や勉強会にも参加し、日頃より職員間でも気を付けてもおられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回「虐待防止委員会」を開催し虐待は絶対しないという思いで全職員周知徹底している。リモート研修や施設内勉強会、伝達講習も行っている。	3ヶ月に1回虐待防止委員会が開催され、職員間にも虐待は絶対しないという思いが周知徹底されています。施設内外の研修や勉強会にも参加し、日頃より職員間でも気を付けてもらえます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で勉強会を開き権利擁護や成年後見制度を学ぶ機会を持っている。実際に制度を利用している方もおられ、情報共有しながらご本人がより良い生活を送れるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、締結の際は時間をかけ理解を得ながら説明している。また、改定等についても書面を含め、不安、疑問が解決できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の際、契約書の中に外部評価委員や市役所の苦情申し立ての連絡先が記載しており、そこを見て頂きながら家族に説明している。	利用者からは日々の関わりの中で意見、要望を聞いておられます。家族の方には、コロナ対策でホームへ入室いただけませんが、管理者が1Fの事務所で対応され意見・要望を伺っています。また、毎月のお便りで利用者の様子をお知らせし、何かあれば電話連絡をされています。遠方の家族の方には、プラン見直し時に電話等で確認しておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや個人面談、普段の会話等で個々の意見や提案を聞く機会を作り、小さな事でもまず現場でやってみる事を進めている。	カンファレンス開催にホーム運営に関する意見要望等を聞くようにしておられます。また個人面談時に個々の意見要望を聞く機会を作っておられます。特に新人職員には毎月管理者が面談の機会を持たれ、話を聞かれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を踏まえ、働きやすい環境作りを努めている。職員の長所を引き出し伸ばせるよう取り組んでいる。	就業規程を整備し、就業環境の整備が行なわれています。職員個々のライフスタイルに合わせ、労働時間の調整等対応されています。働きやすく風通しの良い職場作りを目指しておられます。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修、勉強会の機会を確保し自己研鑽を促している。今年は積極的なリモート研修に参加したり、OJTにも取り組んでいる。	年2回管理者による職員面談が行なわれており、職員の目標や受講したい研修の希望も確認されています。各々に合った内外の研修やリモートでの研修にも積極的に参加されています。OJTも実施されています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し情報収集、情報交換を行っている。今年はコロナ禍の為、相互研修等は中止となる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談の際には、情報提供書をもとにご本人から聞き取りを行い、入居後安心して生活して頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み、見学の際からご家族の不安や要望、思いが引き出せるよう、また相談しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせや施設見学等で聞き取りを行いグループホームに捉われず、利用者、ご家族のニーズに合ったサービスの選定に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で聞かれるご本人の自発的な言動を尊重し、否定する事はせず受け入れ共に生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活状況等の情報交換を行い、ご家族にも協力してもらいながら、一緒にご本人を支えていく関係作りを築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの感染状況を見ながら、馴染みの美容院に出かけたり、自宅に帰ってみたい方にはドライブがてら自宅まで帰ってみる等の支援を行っている。また定期的に自宅へ外泊される方もおられる。	従来より自宅を見に帰られたり、自宅に外泊、また馴染みの美容院に行く等関係が途切れないよう支援し来られていました。コロナ禍に於いても工夫し、可能な限り継続できる様にしておられます。	馴染みの方や人と関わった場合には、利用者のお話をして頂き、利用者のやりたいやしたいことを一緒に探される事も良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格、特徴を知るよう努め職員が間に入りながら入居者同士の関係作りができるよう支援している。入居者同士、興味を持たれ会話される場面も見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了したご家族と近況報告等を含め交流の機会を持ったり、手作り野菜を届けて下さる方もおられる。必要に応じ相談、支援にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向を聞き取り、実現できるよう取り組んでいる。また、意思の疎通が困難な方にはご家族の協力、情報提供をもとに職員間で共有し本人本位となるよう努めている。	日常的な関わりの中で、確認しながら希望、意向を把握するよう心掛けておられます。意思疎通が難しい方については、家族の協力も得ながら推測し希望に沿うような検討が行なわれています。	希望、意向から利用者の生きがいにつなげていけると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族との関係作りの中から、生活歴や今までの暮らしぶり等聞き取り、情報共有しながら個々の馴染みの生活に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミニミーティングを活用し利用者の心身の状態等を話し合い、利用者個々の過ごし方等について検討、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意向に添った計画書となるようカンファレンス等で意見交換、情報共有しながら作成している。また居室担当が中心となりモニタリングを行っている。	居室担当を中心にモニタリングを毎月行い、計画作成担当者と居室担当が話し合い原案作成されます。利用者、家族の意向も加味し、医師や看護職の意見を反映した介護計画が作成されています。6ヶ月毎に介護計画の見直しが行なわれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテの導入により以前より短時間で情報共有でき、実践につなげるよう努めている。また変化の気づきをケアプランに反映させ活かせるよう取り組んでいる。	記録については、タブレットを導入した事で、記録時間の短縮ができるようになり、情報共有もしやすくなりました。変化、気づきを介護計画の見直しに反映出来るように取り組んでおられます。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の置かれている立場、想いを職員間で共有している。他のサービス利用を視野に入れ柔軟な対応を行っている。また、併設している小規模多機能とは常に協力体制にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域の皆さんと交流する事は難しかったが近隣の商店やデパート等へ好きな物を買いきに出かける等楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度、嘱託医の往診を実施。また、ご本人ご家族の希望があれば受診したり、嘱託医との話し合いの場を持ち適切な医療が受けられるよう環境を整えている。	利用者家族の希望を伺った上で、現在は全員協力医かかりつけ医とされています。かかりつけ医は2週間に1度往診して下さいます。往診の際変化があればすぐに家族に連絡をされます。また往診時に家族が同席する事も可能となっております。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に勉強会やミニカンファレンスを行い看護師と介護職は相談しやすい関係を築いている。また、些細な変化を共有し往診、受診にて早目の対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際は、細目な情報交換を行い早期退院に向け医療関係者と連携、調整を図っている。また、ご家族の希望、要望を取り入れるよう取り組んでいる。	入院時は地域連携室とホームでの様子等について情報提供し、スムーズな入院となる様努めておられます。退院カンファレンスでは退院後の生活が円滑に行えるよう注意点等を病院側に確認されます。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	マニュアルを作成し、本人本意の終末期が過ごせるよう、ご家族を含め話し合いの場を持ち、医師・看護師・介護員が連携しチームで取り組んでいる。	契約時には終末期の方針について説明され同意を得ておられます。終末期を迎えられた場合には、改めて医師・家族、ホームで話し合いの場を持ち今後のあり方について検討されます。実際に看取りとなった場合には、医師・看護師・職員・家族でチームとして取組まれます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者個々の急変時のシミュレーションを行い実践につなげるよう定期的に職員間で話し合い共有している。看護職と介護職の連携がとれている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に関する計画書、マニュアルを作成している。年2回の消防訓練を通し、利用者が安全に避難できる方法を身につけるよう努めている。	災害マニュアルに従い年2回避難訓練が実施されています。事業継続計画(BCP)は策定されており、備蓄の食料も用意されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の言葉や表現を否定せず、誇りやプライドを傷つける事のないよう声かけ、対応している。	利用者との関係性ができても必要以上に馴れ馴れしくならないよう気を付けておられます。管理者は気がつかれた時に言葉遣いや対応の仕方について注意されています。排泄、入浴時にはプライバシー確保に気をつけ、行なわれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人希望の毛染めや欲しい物、帰りたいと言う思いが実現できるよう取り組んでいる。また、個々に合わせ簡単な事柄(服を選ぶ、献立を決める等)でも自己決定の場面を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや、やりたい事を聞き取りながら職員の都合やペースにならないようご本人に確認しながら希望に沿った生活支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や入浴時は好みの服を選んでもらうよう支援している。また、行事や外出時等は、いつもと違う装いを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自力摂取を一番に考え、見た目や食感に配慮しながら一人ひとりに合った食べやすい形態で提供している。行事や誕生日には季節感や嗜好を取り入れた献立を楽しんで頂いている。残存機能を活かし食事準備、片付けも一緒に行っている。	3食手作りで作られており、ご飯の炊ける匂いも準備の音も聞こえ家庭的な雰囲気を感じられます。食事の準備や片付け等も職員と一緒に行われています。誕生日には食べたい物を確認され、楽しんで頂く工夫をされています。外食が難しい状況ですので、出前を頼まれることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに合った食事、水分量を検討しながら確保に努めている。栄養バランスや嗜好を考慮しメニュー変更する等、臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者、毎食後ではないが、個々の状態に合わせた口腔ケアを実施している。必要に応じ歯科受診、往診も行っている。	毎食後とはいかないが全員必ず口腔ケアが実施されています。介助が必要な方の口腔内はチェックをされ、休まれる前には義歯は洗浄液に入れ、清潔保持が図られています。必要時には歯科受診や往診をお願いされます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、日中は可能な限りトイレ誘導を行っている。また、オムツやパットの使用削減に努めている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、声掛け、見守り等必要な支援を行い、日中は可能な限りトイレでの排泄を継続して頂いております。オムツ等の使用軽減にも努められています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すよう水分や乳製品、食材等を摂ってもらっている。また、ホットパックや体操、運動等にも取り組み、なるべく下剤に頼らないよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	中重度の利用者にもリフト浴の導入で浴槽内に浸かって入浴を楽しんでもらうよう支援している。可能な限り利用者の希望に添った入浴を提供し、ゆず湯や菖蒲湯等も実施している。	入浴回数は週2回です。入浴日でない時はフットバスを使った足湯も行われています。リフト浴が導入された事で中重度の方も浴槽に浸かって入浴して頂ける様になりました。入浴拒否の方もなく、みなさん入浴を楽しみにされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や気持ちに添った休息を提供している。また、夜間ぐっすり休めるよう日中の活動量に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに必要な薬がきちんと服薬出来るよう支援している。また、主治医、看護師と相談、連携しながら薬の削減、減薬に取り組んでいる。副作用についても理解するよう努めている。	個人ファイルに薬の効能等が綴じられています。薬が変わった時は特に変化が無いか確認し、看護師と連携しながら、見守られています。薬の管理は薬局から届いた物を看護師が管理されています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の「やりたい。」と言う意欲を大切に、出来ている事が継続して行えるような関わり持ちながら満足感が得られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあったが、外出行事や近隣への散歩、ご本人・ご家族の希望で外出、外泊されることもある。	コロナ禍の中でも状況を見ながら紅葉狩り等の外出行事に出掛けられました。また、本人や家族の希望になるべく沿った形で、外出や自宅への外泊等も実施されています。日常的には天気の良い日などホーム周辺の散歩等も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所が行っているが、外出時(近隣の商店や外出行事等)にはご本人に財布を所持して頂き、好きなように支払い等ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話する事は難しいが職員がかけ、利用者のご家族が話せるよう支援している。また、遠方のご家族には定期的に写真やお手紙、利用者と一緒に書いた年賀状を送っている。携帯電話を所持されている利用者もおられ、ご家族の希望があればリモートでの面会も出来るよう体制を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる壁面の飾りやしつらえとなるよう努めている。また、光の反射や不快な刺激がないよう配慮し、清潔保持にも努めている。	季節を感じられる壁面の装飾となっています。利用者各々が落ち着けるスペースとなるようソファも配置されています。常に消毒は欠かさず、窓も少し開け、換気にも気をつけ温度管理も行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツや共用空間のソファ設置等、利用者同士や独りでも過ごせる居場所、空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、見慣れた物(イスやテレビ、家族写真等)、ご家族と相談しながらご本人が安心して居心地よく過ごせる居室内空間となるよう工夫している。	自宅で使い慣れた物や好みのものを持ち込んで頂き、自宅に近い空間作りを心掛けておられます。ベッドは利用者の状況に応じて使いやすい配置にされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行、移動時に障害となるものを取り除き対応している。また、台所ではケガの無いよう見守りながら安全に食事作りが楽しめるよう支援している。		